

## いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会報告書（素案）

## 1 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョンについて

## (1) 策定の背景・目的

板橋区では、文化芸術振興基本条例（以下「条例」）に基づき、平成 23（2011）年 3 月に文化芸術振興ビジョンを定め、現在は、平成 28（2016）年度からの 5 か年計画である文化芸術振興基本計画 2020 を着実に推進している。

区立美術館の大規模改修、史跡公園整備計画の策定など一定の成果を上げてきたが、文化会館の老朽化や指定管理者と板橋区文化・国際交流財団の役割分担に重複が指摘されるなど課題は残されている。

この間、国では平成 29（2017）年に文化芸術基本法を改正し、平成 30 年（2018）3 月に文化芸術推進基本計画を策定した。また、平成 30（2018）年 6 月には、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（以下「障害者文化芸術推進法」）が施行され、国は平成 31（2019）年 3 月に同法に基づく基本的な計画を策定した。

また、文化の祭典でもある東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」）を契機として、日本の文化芸術が有する魅力を発信し、多様な人々の参加や交流を生み出すことによって、まちのにぎわいが創出されるなど、文化芸術が生み出す多様な価値への注目も高まっている。

同時に、文化芸術振興基本計画 2020 と計画期間を同じくする多文化共生まちづくり推進計画 2020 も改定の時期を迎える。多文化共生まちづくり推進計画 2020 では、友好都市との交流事業の充実や文化事業との連携、国際理解教育事業の拡大、サイン・行政情報の多言語化などに取り組み、一定の成果を上げているものの、近年では、外国人住民数が大幅に増加しており、東京 2020 大会や平成 31（2019）年 4 月に施行された改正出入国管理法を踏まえると、この傾向はさらに続くものと推測され、多文化共生を推進する取り組みのさらなる強化が課題となっている。

今後の文化芸術及び多文化共生の推進にあたっては、No.1 プラン 2021 において視野に入れている SDGs の理念を踏まえつつ、文化芸術の発信・発展・継承と多文化理解及び国際交流を連携して推進することによって、心豊かで多様性のある共生社会の実現に向けた相乗効果が期待できる。

以上から、令和 3（2021）年度を始期とする次期文化芸術基本計画及び多文化共生まちづくり推進計画においては、文化芸術振興ビジョンを多文化共生の視点も加えて見直し、板橋区基本計画 2025 の後半 5 年間でめざす文化芸術・多文化共生の「あるべき姿」の具体化とその実現に向けた施策を示す「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025」として策定する。

## (2) 検討の視点

- ・区民の意識意向アンケートなどを踏まえ、区民公募委員や学識経験者、地域・関係団体等の意見に基づき検討する。
- ・文化芸術・多文化共生の各分野において、現行計画の進捗状況や国の動き・社会の変化等を踏まえて課題を整理し、2025 年までのあるべき姿や施策の方向性を検討する。
- ・多様な文化芸術と国際交流の連携など、文化芸術の振興と多文化共生の推進に共通する課題を整理しながら、5 年間で重点的に取り組むべき施策を検討する。

### (3) 文化芸術及び多文化共生に関する環境の変化等

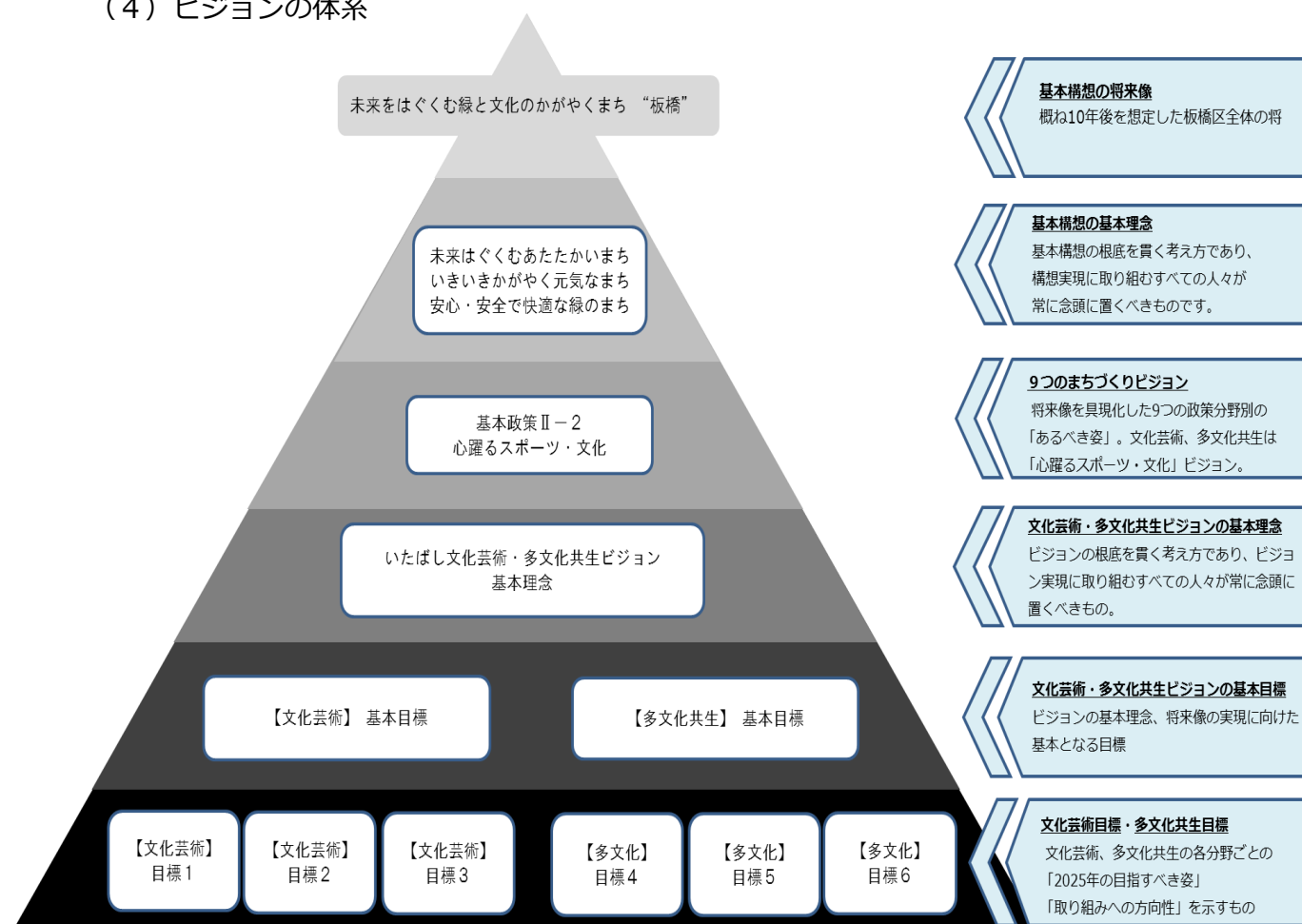
#### ＜国及び社会情勢等の動き＞

- ・東京 2020 大会の開催決定
- ・改正文化芸術基本法施行（平成 29 年 6 月）
- ・文化芸術推進基本計画策定（平成 30 年 3 月）
- ・国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律（平成 30 年 6 月）
- ・国際文化交流の祭典の実施の推進に関する基本計画策定（平成 31 年 3 月）
- ・障害者文化芸術推進法施行（平成 30 年 6 月）
- ・障害者文化芸術推進基本計画策定（平成 31 年 3 月）
- ・改正出入国管理法施行（平成 31 年 4 月施行）
- ・日本語教育推進法施行（令和元年 6 月施行）
- ・SDGs の推進

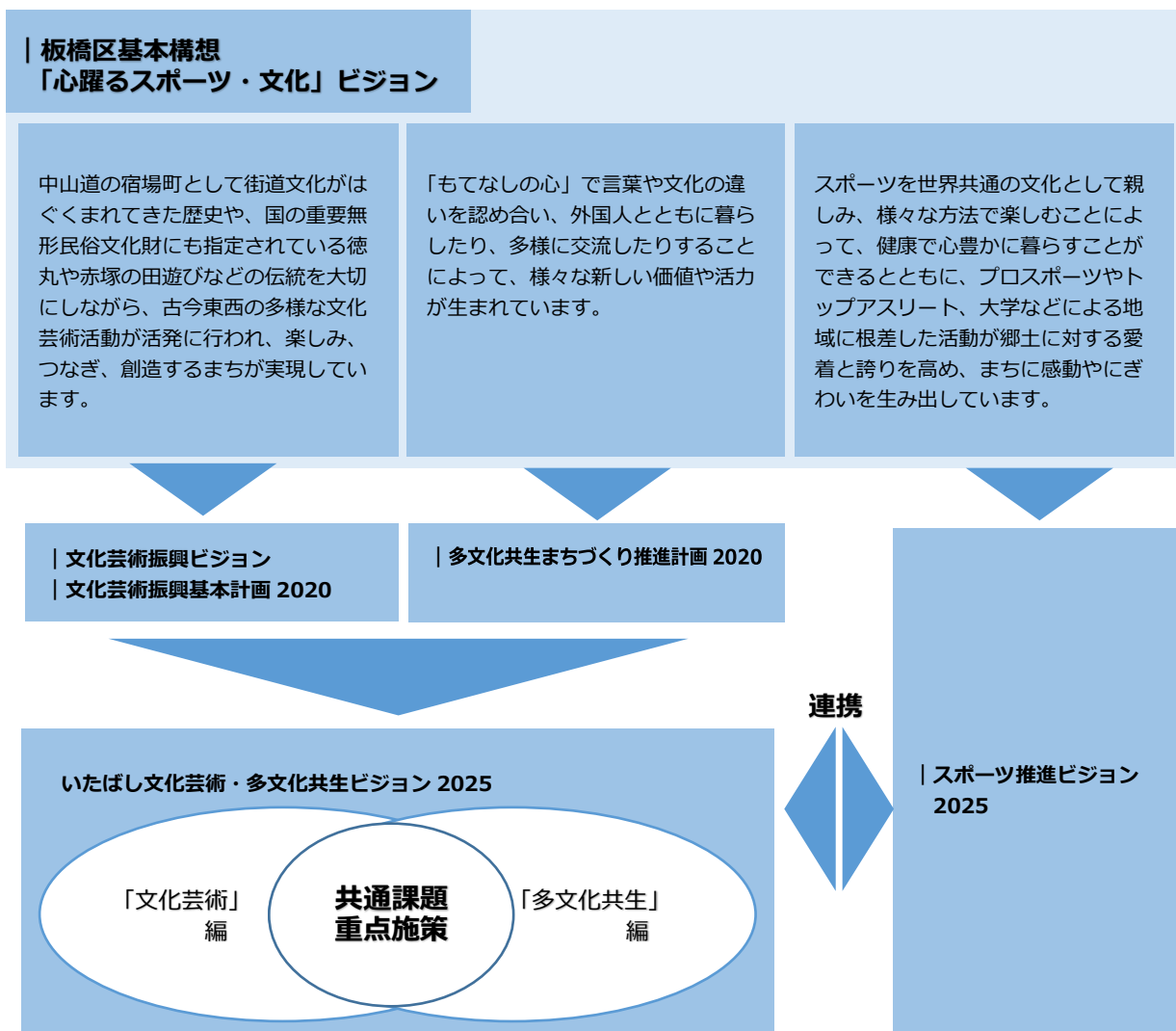
#### ＜板橋区内の動き＞

- ・総人口は増加傾向、2030 年をピークに緩やかに減少（板橋区人口ビジョン）
- ・外国籍住民は増加傾向、令和 2 年 28,782 人（総人口比 5%）
- ・陸軍板橋製造所跡が国史跡に指定され、史跡公園の整備構想・基本計画策定
- ・区立美術館の大規模改修工事完了、リニューアルオープン
- ・郷土資料館の展示再整備
- ・板橋区手話言語条例制定
- ・統合アプリ「ITA Port」誕生

### (4) ビジョンの体系



## (5) ビジョンの位置づけ



## (6) ビジョンの期間

平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
板橋区文化芸術振興ビジョン (平成23年度～)					いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025 (令和3年度～令和7年度)				
板橋区文化芸術振興基本計画2020 (平成28年度～令和2年度)									
板橋区多文化共生まちづくり推進基本計画2020 (平成28年度～令和2年度)									

### 3 板橋区の文化芸術について

#### 板橋区文化芸術振興基本計画 2020 の進捗

##### ■文化芸術の風おこし

区の多様な特性、資源や人材を活用し、区民の主体的な活動を盛んにしていくことにより、文化芸術のもつ様々な力が発揮され、板橋らしい個性あふれる文化芸術の創造につながります。

そのために、生活の身近なところに文化芸術との接点を生み出し、文化芸術の風を感じることでできるまちづくりを目指します。

##### <主な取り組み・環境変化等>

- 区立美術館の大規模改修工事完了、リニューアルオープン（令和元年6月）
  - ・国宝・重要文化財の公開許可を受けられる展示環境整備
  - ・コミュニティスペースを設置
  - ・ユニバーサルデザインを推進 など
- 郷土資料館の展示再整備（令和2年1月）  
学校教育や現在整備中の（仮称）史跡公園との連携を見据えて施設を改修し、1階常設展のリニューアルを実施
- 「自然と歴史と文化の里・赤塚」の推進  
赤塚地域スタンプラリー事業を実施、シェアサイクルシステムの実証実験を赤塚地域で開始し、回遊性・利便性を高めることで赤塚地域の魅力を向上
- 区民文化祭・前夜祭による東京2020大会の機運醸成  
区内26の文化団体が集まった文化団体連合会による2か月間にわたって繰り広げる区民文化祭。平成28年度から文化団体が集結して演目披露する前夜祭を実施。平成30年度からは東京2020大会公認プログラムとして開催。
- 海外の姉妹・友好都市との文化交流  
海外の姉妹・友好都市が他区に比べて多い特徴を活かし、文化交流を推進。令和元年度はバーリントン市との姉妹都市提携30周年記念事業を実施し、公式訪問団による相互訪問、市民区民レベルでの相互訪問、文化団体による文化交流など、相互理解と交流を推進。
- ボローニャ国際絵本原画展  
昭和56年から区立美術館で毎年開催。絵本原画を芸術として捉える美術館の先駆け。令和元年6月に美術館のリニューアルオープン・開館40周年を記念した同展覧会は来館者10,558人を記録（第1回に次ぐ来館者数）。
- “絵本のまち板橋”の推進
  - ・平成16年にボローニャ子ども絵本館を開館。
  - ・いたばし国際絵本翻訳大賞開催。
  - ・小さな絵本館（区内合計9か所で、絵本や絵本館を紹介するスポットを運営）
  - ・小学生向け絵本づくりワークショップ（区立図書館11館で各館3回実施）
  - ・中学生向け絵本づくりワークショップ  
（区内の印刷会社・製本会社の協力により、「本格的な絵本づくり」を行う）
  - ・いたばし子ども絵本展開催  
（いたばし国際絵本翻訳大賞中学生部門入賞作品、小中学生作成絵本展示）
  - ・区の基本構想や各種計画書の表紙、結婚記念カードや育児パッケージ目録などについて“絵本のまち板橋”をイメージさせるデザインを導入

## ■歴史文化の記憶つむぎ

区民が伝統文化や文化財に触れることのできる機会や情報の提供などを通して、伝統文化の継承と文化財の保存に努め、板橋区の歴史文化や伝統を誇りとして後世につないでいけるような、「歴史文化の記憶つむぎ」を推進します。

### <主な取り組み>

#### ○「旧粕谷家(東の隠居)住宅」の復元

江戸時代中期に建てられた「旧粕谷家(東の隠居)住宅」を平成 28 年 1 月から解体・復元工事を開始。工事過程で享保 8 年（1723 年）の墨書銘が発見され建立年代が確定し、関東地方では最古級に属する古民家として文化財的価値が明らかとなり、東京都指定有形文化財に指定。地域の歴史や文化を伝承する体験施設として活用予定。

#### ○史跡公園の整備

板橋区加賀に広がっていた板橋火薬製造所は、官営工場の日本最古の工場であり、その跡地を近代化・産業遺産を保存・活用する都内初の史跡公園として整備。

#### ○初夏・秋の日本庭園等

水車公園内の日本庭園・茶室「徳水亭」において、初夏は華道、秋は茶道を主とした事業を実施。夏休みには子ども華道・茶道体験講座を開催するなど、日本古来の文化に親しむ機会を提供。

#### ○板橋区伝統工芸展の開催

区役所イベントスペースにて伝統工芸のチャリティーイベント販売を実施。（東京手描友禅、江戸小紋、江戸筆提灯、甲冑、表具、根付彫刻、江戸象牙、鼈甲、三味線など）

#### ○「落語のまち」の展開

- ・区内在住の若手落語家・講談師による板橋落語会を年 3 回開催。そのほか板橋名人寄席を年 2 回開催、落語のアウトリーチ事業も実施するなど「落語のまち」を展開。
- ・区内在住人間国宝講談師・神田松鯉をはじめとする人気芸人による、自宅で学ぶ古典芸能「板橋おんらいん寄席」として動画配信。

## ■文化芸術の人そだて

文化芸術の振興は、担い手である活動を行う人の裾野を広げるとともに、事業やイベントの運営スタッフ、ボランティアなどの活動を支える人材の育成や確保が重要になります。とりわけ、次代を担う子どもたちは、多くの可能性を秘めた大切な人材であり、ひとりでも多くの子どもが文化芸術に親しむ大人に育っていくことが期待されます。

このように、文化芸術に関わる人材を様々な視点で捉え、育てていく「文化芸術の人そだて」を推進します。

### <主な取り組み>

#### ○板橋区にゆかりある世界的アーティスト等による次代の育成

- ・区内在住人間国宝講談師・神田松鯉独演会
- ・スタンウェイピアニスト・佐野優子ピアノコンサート
- ・ヴァイオリニスト・松原勝也「子どもと一緒にコンサート」「ジュニア管弦楽合奏団」

#### ○いたばし国際絵本翻訳大賞

区の友好交流都市イタリア・ボローニャ市で開かれるボローニャ児童図書展の出展絵本作品の翻訳を通して、国際理解の推進を図る。一般部門のほか中学生部門も併設し、次代の文化芸術を創造する人材の育成を図る。

#### ○国内外の姉妹友好都市との文化交流

- ・友好都市金沢市と板橋区の中高生によるジュニアジャズ交流ライブを開催し、自治体間の人的・文化的交流を推進。
- ・海外姉妹友好都市との文化交流  
(中学生海外派遣事業、青少年ホームステイツアー、学校間作品交流など)

#### ○文化財の保存と活用（ふるさと文化伝承事業）

民俗芸能が伝承されている地域内の小学校を拠点として、それらの学校の3年生または4年生を対象に、地域の民俗芸能保存団体と連携した体験学習を実施し、次世代への継承を図る。

#### ○アウトリーチ事業等の実施

音楽・芸術・芸能などの活動者や区内の文化芸術団体などと協働し、区内小・中学校や福祉施設に出向き、クラシック音楽や落語鑑賞など実施。

## ■文化芸術の土づくり

文化芸術の振興には、多様な資源やそれに関わる人々を取り巻く環境も重要な役割を担っています。文化芸術活動は、いつでも、どこでもできるものが多い反面、音楽分野で響きの良いホールや練習室が求められるように、活動場所に関する情報や、鑑賞を楽しむ人にとっての魅力的な公演など、充実した文化芸術情報を入手できることが必要です。また、文化芸術活動に対する経済的な支援や、行政をはじめとする関係者間の連携や協働体制の確立も重要な要素となります。

このような文化芸術に関わる環境を、文化芸術活動を活発にするための土壌と位置づけ、豊かな実りが得られるように手入れをしていく「文化芸術の土づくり」を行います。

### <主な取り組み>

#### ○文化芸術活動振興助成事業・顕彰事業

文化芸術活動を行う個人や団体を支援する助成等を行い、文化芸術活動の活性化と創造基盤の充実を図る。

#### ○文化施設（文化会館）の環境整備充実

デジタルサイネージ導入、サイン多言語化（日・英）、SNS（Facebook）開設、インターネット抽選導入、ホームページでのバリアフリー情報の発信、鑑賞用チャイルドシート貸出、施設案内をわかりやすくするためのピクトグラム（絵文字）表示など

#### ○区内文化事業の情報発信

区立文化会館をはじめとした区内の公共施設で実施する様々なイベント情報を掲載して情報発信する財団情報誌「ふれあい」の発行（年間 147,000 部発行）やSNSを活用した情報発信。

#### ○区内施設等のバリアフリー情報の発信

区立文化施設だけでなく、官公署や公園、鉄道駅のほか区内イベントにおけるバリアフリー情報等も掲載する「いたばしバリアフリーマップ どこでも誰でもおでかけマップ」を発行。情報はピクトグラム（絵文字）、マークにてわかりやすく表示し、また視覚障がい者への対応として「音声コード」も掲載。

#### 4 現計画の評価及び課題 【文化芸術部会検討】

##### ■ 検討テーマ「板橋らしい文化芸術」

###### (評価)

- 自然と歴史と文化、絵本のまちなど、今あるものを活かして、伸ばしていく取り組みは評価できる。
- 区立美術館は「絵本」を通じて、イタリア・ボローニャとのつながりを構築しており、評価できる。
- 区立美術館は館所蔵の江戸美術と、板橋区の宿場町の特色と融合した展覧会を行っており評価できる。
- 板橋区出身、ゆかりのアーティストの活躍を支援することは評価できる。

###### (課題・意見)

- 文化芸術は個人の楽しみとして認識されることがあるが、文化芸術活動は生きがいであり、生活の一部である。文化芸術の活性化は、まちの活性化に繋がる重要なものと捉えていくことが必要。
- 多様な文化芸術活動がある中で、すべての人が自由に活動できる環境を提供する必要がある。そのために各活動を把握し、共有し、支援が必要。
- 「板橋らしい文化芸術」として、個別の文化芸術を支援する場合は、区内全体の文化芸術のバランスや支援方法を考えることが必要。
- 板橋区には文化芸術における良いコンテンツがあり、それぞれ別々に点在しているため、分野横断的に発信を考えていくことが必要。
- 施策に具体性を持たすために、区内の文化芸術資産を細分化し、活用方法を考えることが必要。
- アーティストによる「鑑賞する文化」、区民が披露する「区民が演じる文化」があるが、区民が主体となる「区民が演じる文化」の充実も必要。
- 教育、福祉、観光などの関係分野と連携して取り組むことが必要。
- 文化芸術活動や鑑賞ができない人の実態を把握し、誰もが参加しやすい環境を整えることで全体の参加者を増やすことが必要。
- 文化芸術振興では企画、キュレーションが重要となる。区職員だけでなく、専門分野の識者に意見をもらうことも必要。
- 地域性を大事にしていくべき。西板橋では、田遊びなどの文化が残る。西の板橋と、東の板橋に違いがあってよいのではないかな。
- 文化活動は民間主導で板橋地域、志村地域など、地域センター単位で特色のある取り組みを行い、小さいエリアでの活動が、徐々に広がることが望ましいと考える。
- 区立美術館における地域芸術家支援が必要。
- 美術館・郷土資料館のリニューアルの活用方法を検討するとともに、郷土芸能・文化財の認知度向上へ取り組むことが必要。また史跡公園の整備に伴う加賀の魅力発信方法も検討が必要。



- 新しくなる中央図書館には、板橋の魅力を発信する役割を担ってほしい。また区内に点在する魅力を、横断的に繋げる役割としても期待している。
- 伝統工芸は後継者不足による継承問題がある。区では伝統工芸などを教育の一環として学ぶが、そこから継承などへ向けた発展やフィードバックがない。例えば伝統工芸は歴史的、美術的価値があり、美術館展示などで価値あるものとして展開し、板橋区のブランド化に繋げていくことで、若者が伝統工芸への関心を持つきっかけとなるのではないか。また、区は伝統と若者が求めるものを把握し、ハブの役割を担うことが必要。
- 「絵本のまち」は、絵本を軸にしたどのような展開を目指すのか示すことが必要。また絵本をきっかけとして、歴史ある伝統文化と、新しい文化芸術が会う場として、新たな創造のきっかけとすることはどうか。また「絵本のまち」などの子どもが活躍できるテーマを活かし、子どもが主体的に区と関わり、実感が得られる機会とすることが必要。

## ■ 検討テーマ「文化芸術活動の場」

### （評価）

○文化芸術活動の場として、アウトリーチ、ロビーコンサートなど文化芸術活動の裾野を広げる取り組みは評価できる。

### （課題・意見）

○文化会館は老朽化が進み、音漏れによる利用制限もあるうえ、利用率の減少という課題も抱えている。施設改善を行い、安心・安全に利用できる環境にすることで、活動の場や鑑賞機会の拡大につながり、利用者の増大も見込める。

○文化会館は多くの方が利用する場であり、また多くの芸術家が利用している場でもある。今後は、利用者層や利用方法などのデータ収集、区内で活動する芸術家の把握など、文化芸術情報の管理が必要である。同時に、文化会館を情報発信の拠点として活用することや、近隣商店街と連携するなどの事業 PR を進めることも求められる。

○文化施設のバリアフリー化を推進していく必要がある。点字案内やエレベーターのスペース拡大を行い、音声案内ガイドを活用するなどハード・ソフト両面から施設改善を行うことで、障がいの有無や年齢、性別に関わらず、誰もが文化芸術活動を行える環境を整備していくべきである。

○新たな文化芸術活動の場の創出が必要である。既存の文化施設に限らず、公的空間や屋外施設などを活用することで、区内芸術家の活動の場を増やしていくのはどうか。さらに、地域の特性を生かし、それぞれに小規模なホールなどを整備することで、コロナウイルス感染症により大規模イベントが開催できないような場合でも、柔軟な文化芸術活動の実施が可能になり、同時に地域に根付く文化の創出にもつながる。

○区民主体の文化芸術活動機会を創出するためには、文化施設など活動できる場所の認知度向上が求められる。民間の力を活用するなど、周知の方法を検討していくべきである。

○文化施設の空室について、状況に応じて低価格で提供することで、活動の場の提供、空室解消、地域の身近なイベント開催など各方面への利益となる取り組みができるのではないかと。

## 5 次期ビジョン（2025 年のあるべき姿）と施策の方向性 【文化芸術部会検討】

### ■ 2025 年のあるべき姿

- 「絵本のまち」や「産業文化都市」など板橋区の歴史的・文化的ブランドが区民に浸透し、その価値が交流都市をはじめ世界中に発信されています。
- 板橋区文化団体連合会、板橋ゆかりのアーティストなどの文化芸術や、郷土芸能、伝統文化などの歴史文化財を、区民が知り、自ら楽しむことをとおして、板橋らしい文化芸術を応援しています。
- 文化会館を中心とした安心・安全に利用できるハード面の整備と、文化団体への支援、活動や発表できる機会の創出などソフト面の充実により、年齢や性別、障がいの有無を問わず、だれでも文化活動に参加できる環境が整っています。

### ■ 施策の方向性

- 板橋らしい文化芸術の魅力発信  
「絵本のまち」や光学・印刷などの産業分野など、板橋らしい文化がもつ魅力を発信していきます。また、区内の地域を、それぞれの特色を生かした文化芸術活動の場として発信していきます。さらに、海外姉妹・友好都市との交流をとおして、文化・観光事業と国際交流事業の連携を推進していきます。
- 地域がもつ文化芸術資産の活用  
赤塚エリアの文化施設の魅力向上や連携推進、加賀エリアの文化・産業・歴史ゾーンの整備など、それぞれの地域がもつ資産を有効活用していきます。また、郷土芸能、伝統文化の継承や認知度向上、地域文化の発掘・創造にも取り組みます。
- 区民による文化芸術活動の支援  
文化会館のサービス・設備を充実させることや、活動できる場所や機会を充実させることなどをおして、区民の文化芸術活動を支援していきます。同時に、子どもの豊かな想像力を育む教育により、未来の担い手を育成していきます。

## 6 板橋区の多文化共生について

### 板橋区多文化共生まちづくり推進計画 2020 の進捗

#### ■コミュニケーション支援

外国人の方にとって、日本語のことばや文字が十分にわからないことが、日常生活を送るうえで大きな支障となっています。日本語が不自由でも、不便なく日常生活を送り、行政サービスを受けることができるよう、広報活動の体制を整備し、多様な言語による情報提供や案内表示をするなどのコミュニケーション支援を実施しています。

また、地域で日常生活を送るために必要な基本的な事項が理解できるよう、日本語の学習機会を提供しています。

#### <主な取り組み・環境変化等>

##### ○外国人への広報活動の体制整備（多言語化対応）

- ・多言語リーフレット（わたしの便利帳 外国語版）
- ・街区表示板・案内板のローマ字・外国語（英・中・韓）併記
- ・観光いたばしガイドマップの作成（英・中）
- ・外国人向けガイドマップの作成（英・中）

##### ○区ホームページの多言語化

区のホームページ上で、自動翻訳サービスを提供（英・中・韓）

##### ○各種マップの多言語化

冊子「Welcome to いたばし」に、多言語で作成した板橋区の地図を掲載。同様に、避難場所などを掲載した防災マップも掲載。

##### ○財団情報誌「アイシェフボード」の多言語化

国際交流事業や外国人に役立つ区政情報を掲載した、広報いたばしに準ずる財団情報誌「アイシェフボード」を多言語で作成（ルビ付き日本語、英、中、韓）。

##### ○国際交流員・ボランティアの通訳、翻訳業務等の実施

国際交流員やボランティアによる、庁舎窓口通訳や行政文書翻訳、多文化共生の啓発活動を実施。また庁舎窓口での電話受話器を介した三者間通訳の対応窓口を拡大。

##### ○区施設内案内板等の多言語化

公共施設の改築・改修等に合わせて、施設内の案内板等を多言語で作成。平成 30 年に「板橋区屋外案内標識デザインガイドライン」を策定し、文化会館、区立美術館、小豆沢体育館などで館内外のサイン多言語化・ピクトグラム表示を実施。

##### ○サイン多言語化基準の策定

区の設置する各種案内板等のサインについて、多言語標記する際に統一的な内容となるよう、平成 29 年に「板橋区サイン多言語化基準書」を策定。

##### ○日本語教室の開催

日本語を話せない外国人の方のために、日常生活を送るうえで基本的な初級レベルの日本語を学習する財団主催の教室を実施。

## ■生活支援

外国人の方が地域で安心して暮らすには、母語で対応可能な相談体制を整備するほか、生活情報の多言語化などの生活支援が必要です。これに加え、外国人児童・生徒に対する日本語教育や、日本語が話せない保護者と学校側とのコミュニケーションに対する支援も重要となります。また、外国人の方が防災に関する情報を得られず孤立しないよう、防災情報の多言語化も求められています。

### <主な取り組み>

#### ○生活情報・行政情報の多言語化

- ・住宅情報案内（都営・区営・公社・UR など）（英・中・韓）
- ・ごみ・リサイクルに関する情報（英・中・韓）
- ・国民健康補償や年金に関する案内（英・中・韓）
- ・9 か国語版の母子健康手帳の配付
- ・乳幼児健診や母子保健サービス（英・中・韓・タガログ）
- ・就学に関する案内（英・中）
- ・防災情報リーフレット

#### ○外国人相談会の開催

日本語でうまく説明ができない外国人を対象に通訳を介し、弁護士や行政書士などの専門家に無料で相談できる外国人相談会を実施。

#### ○中国帰国者生活相談の実施

福祉事務所に来所した中国帰国者やその家族に対し、中国語の話せる相談員が相談に応じた。

#### ○日本語学級へのサポート体制の整備

区立小中学校に通う日本語能力が不十分な生徒・児童に対して、指導員や通訳ボランティアの派遣を行い、授業サポートを提供。

#### ○英語教育の実施

外国人英語補助指導員による生きた英語を学び、児童・生徒の国際理解教育を深める授業を実施。

#### ○外国人の防災訓練への参加促進

防災訓練に外国人が参加しやすいように通訳ボランティアを配置。

## ■多文化共生の人づくり

地域を安心して暮らせるものにするためには、外国人と日本人がともに言葉や文化の違いを理解しあうことが必要です。区民主体の多文化共生事業を支援したり、区民が異なる文化に対する理解を深めることができる事業を実施する、姉妹都市等との区民レベルの交流を促進するといったことが求められています。

また、外国人が事業などに参加しやすい工夫を凝らすことも重要です。そして、多文化共生施策の対象は、外国人のみでなく日本人も含まれることを認識しなければなりません。

### <主な取り組み>

#### ○多文化共生推進イベント等の開催

日本舞踊講座やカナダ文化紹介講座など、異なる文化に対する理解を深める講座や、多文化共生や国際理解をテーマにした講演会等を実施。また、外国人と日本人が気軽にコミュニケーションできる機会を提供した。

#### ○友好姉妹都市等との区民交流の促進

姉妹都市等への区民ツアーの派遣など、区が提携した海外都市との区民レベルの交流を促進する事業を実施した。

#### ○バーリントン市姉妹都市提携 30 周年記念事業

- ・青少年ホームステイツアー、バーリントン市民訪問団受入れ
- ・バーリントン市交流事業

富士見台小学校とバーリントン市私学校 Tecumseh School の間で作品交換及び展示した。また東京家政大学付属女子高等学校と M.M Robinson highschool の間で文通交流。

- ・石景山区交流事業

石景山区民が撮影した最近の街並みや風景等の写真を展示する「石景山区写真展」を開催。

#### ○ホームステイ・ホームビジットの実施

ホームステイ・ホームビジットを通じて、外国人が日本の文化や生活を体験できるよう、ホストファミリーを紹介し、区民・市民間の交流の促進を図った。

#### ○区民主体の多文化共生事業の活動支援

区内ボランティア団体や NPO 団体などが多文化共生事業等を行う際に、一定条件に基づき活動助成を行った。(日本語教室、国際交流事業など)

#### ○職員を対象にした多文化共生研修の実施

多文化共生に関する職員の意識啓発を行うために、研修を実施した。

研修内容：やさしい日本語の知識とスキルを身に着け、外国人と適切なコミュニケーションを取る

#### ○MOTENASHI プロジェクト

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、世界の人々に感動を与える「MOTENASHI」を実現する人材育成のため、クリエイティブ研修やコンシェルジュ育成プロジェクト等を実施。

- ・大東文化大学連携講座

「板橋の魅力を伝える もてなし英語（初級/中級）」を実施。

- ・東京家政大学・淑徳大学連携事業

「共創マイスター養成講座」を実施。

## 7 現計画の評価及び課題 【多文化共生部会検討】

### ■ 検討テーマ「板橋らしい国際交流」

#### (評価)

- 板橋区が行っている国際交流事業について、一つの区がこれだけの事業を行っていることは評価できる。
- 平成 30 年度に行った「板橋区海外姉妹友好都市紹介イベント」のなかで、企画展示を Google ストリートビューで公開するという試みを行ったが、再生回数が 15,687 回という数字だったことは素晴らしい。
- 交流都市が 23 区内最多の 5 か国という点は非常に評価できる。国際交流は世界平和につながるもので、重要である。
- 市（区）民交流に関して、交流後も、パネル発表やスピーチを行うなど、広く区民に周知するように取り組んでいる。

#### (課題)

- 海外から板橋区に来る外国人は、生産年齢人口が多い。自分の子どもが学校に通う世帯か、自分がその社会で働いているか等で、社会との関わり方が変わる。今後は「仕事」という側面での交流を考えていけば、外国人の雇用を生み出し、地域の担い手になってもらえると思う。
- 外国人とともに仕事をし、ともに生活するという多文化共生の新たなステージに入ってきていると感じる。外国人は「お客様」ではなく、同じ板橋区民である。事業については、わざわざ外国人のために用意するのではなく、日本人が普段活動している中に、外国人が入っていければよい。
- 日本人の側から、外国人の生活が見えていない部分が多いと感じる。外国人の生活の実態を、日本人が理解できる仕組みづくりが必要だと考える。
- 事業を行う際は、小さな単位で行い、参加者が互いの顔を見られる環境づくりが大切である。
- 今後は、区が主体的に事業を行うのではなく、区民の活動をサポートすることが重要であると思う。
- SDG s の視点から多文化共生の推進に取り組むためには、外国人が日本で学んだ知識や技術を母国に持ち帰ってもらうという発想や、交流都市などとの国際交流は、行政課題に関するテーマをもって行うという視点が必要である。社会の問題を世界中の人々でどのように解決していくかという問いが、SDG s の取組みを発展させる方向性のひとつである。
- 地域での交流は、外国人を町会の活動に巻き込むなどして、当事者として扱うべきである。
- 板橋区は交流都市が 23 区中で 1 番多い 5 か国となっている。交流都市からの来賓について、建設関係や教育・高齢者施設視察など、テーマをもって受け入れを行えるとよいのではないかと考える。
- 交流都市との青少年・区民交流をさらに進めていくことが課題であると感じる。写真家や芸術家など、同じ分野で活躍する人同士の交流などを考えていくのはどうか。さらに、このような交流は、一度きりの交流ではなく、継続的な関係を築く必要があると感じる。

- 周年交流を市民交流へ、継続的な発展
- 青少年・教育交流のさらなる促進
- 文化交流のさらなる促進
- 市民交流とボランティア活動のさらなる充実
- 在住外国人の国籍や言語の多様化に対応するため「やさしい日本語」の活用推進
- 日本語学習機会提供のさらなる充実
- 日本語学習のボランティア活動を通じた日本人と外国人の交流促進



## ■ 検討テーマ「日本語教育とやさしい日本語・多言語対応」

### (評価)

- 児童・生徒など、青少年に対する施策は、比較的充実している。
- 板橋区には、多数の語学ボランティアが存在している。

### (課題)

- 多言語対応とは、既存の文書等の言語を翻訳するだけということではない。今あるものを根本から見直し、だれにとっても本当にわかりやすいものを作るということである。
- 外国人が住みやすい区にするために、小中学校・地域・大学の連携を強めることが必要。
- 日本の文化に触れることを通して、日本語を学ぶことができる仕組みづくりが必要。
- 外国人の子どもを対象とする、入学前のオリエンテーションを行ったらどうか。価値観や文化の違いなどを事前に説明しておくことで、学校生活に早くなじむことができる。
- 外国人に地域の担い手になってもらうには、日本語を理解してもらうことが欠かせない。病気の際など、生活する上での困りごとをサポートできたらよい。
- 通訳などのボランティアに対して、行政のサポートが不十分だと感じる。また、ボランティア同士のつながりも希薄である。ボランティア間での連携を通じ、情報共有を行うことで、より有効なサービスを提供できる。
- ボランティア活動に関わる区民の数を増やすことが重要である。
- ボランティアに対する敬意を、何らかの形で区から示すことが必要ではないか。
- 外国人に、地域の行事にどの掲示物の多言語対応に課題を感じる。
- 在住外国人の国籍や言語の多様化に対応するため「やさしい日本語」の活用推進。
- 日本語学習機会提供のさらなる充実。
- 日本語学習のボランティア活動を通じた日本人と外国人の交流促進。
- 参加してほしいと思っても、周知することが困難である。

## 8 次期ビジョン（2025 年のあるべき姿）と施策の方向性 【多文化共生部会検討】

### ■ 2025 年のあるべき姿

- 海外の姉妹・友好都市に住む人びとと区民の活発な交流を通して、自分とは違う文化に暮らす人への理解や、世界平和を願う気持ちが、区民に広く浸透しているとともに、国際色豊かな次世代が育っています。また、板橋の文化がもつ魅力が姉妹・友好都市をはじめとした世界中に発信されています。
- 地域に暮らす外国人を、同じ地域に暮らす区民として認識し、日常生活の中で、人種や言語の壁を感じることなく、ともに力を合わせ、地域の課題を解決しています。
- 日本語がわからない外国人の方の気持ちに寄り添い、生活するうえで必要な情報を、適切に提供するという意識が区民に浸透しています。また、外国人の方が情報にアクセスしやすい環境が整備されています。
- 外国人が日本語を学ぶことができる環境を整え、日本語を理解してもらうことで、外国人が、自分が暮らしている地域に愛着を持って生活しています。
- 地域で活動するボランティアの力を最大限に活用するため、活動しやすい環境や、ボランティア同士の顔が見えるような仕組みが広く取り入れられています。また、潜在的なボランティアのなり手を積極的に発掘しています。

### ■ 施策の方向性

- 海外友好・姉妹都市との関係強化  
海外友好・姉妹都市との交流を深めることで、より強い絆をはぐくむとともに、世界共通の課題解決や、世界平和の実現などに向け、新たな関係を構築していきます。また、青少年・教育交流など、区民レベルの交流を促進していきます。さらに、海外姉妹・友好都市との交流の際には、板橋の文化資産を積極的にアピールしていきます。
- 行政情報の多言語化と提供方法の充実  
窓口での通訳サービスの活用や、パンフレット等の多言語化対応を進めることで、外国人の方の日常生活をサポートします。また、やさしい日本語を使用する意識を区職員に浸透させていきます。
- 地域住民としての外国人との共生  
地域に暮らす外国人が、日本人と同じ生活ができるよう、必要な情報をわかりやすい形で伝えとともに、日常生活の困りごとなどを気軽に相談できる体制を構築します。
- 日本語の学習環境の支援  
日本に住む外国人の日本語能力を問わず、どのような方でも十分な学習ができる環境を整備します。
- ボランティアの活動支援の拡充  
外国人の日本語学習をサポートするボランティアの活動支援をするため、ボランティア同士の連携が取れる仕組みづくりや、尊厳をもって活動できる環境をつくります。

## 9 板橋区の文化芸術振興と多文化共生推進の連携について

### ■連携のあり方

- 文化芸術活動の参加者、ボランティアに外国人を募集することで、外国人に日本文化を広める機会となる。また外国人がボランティアなどで参加することで観客への外国語対応が可能となり、連携することができる。
- 地域に暮らす外国人の協力により、海外絵本の読み聞かせなどを行い、絵本を通じた情操教育、国際理解教育を推進することができる。また地域レベルの取り組みに外国人が参加することで共に生きる地域社会の構成員として相互理解に繋がる。

### ■2025 年のあるべき姿

- 板橋の地域文化や歴史文化財の魅力が区民に親しまれ、身近に文化芸術を感じる環境が整っています。また文化芸術を通じて、同じ地域に暮らす日本人と外国人が互いに理解し、ともに力を合わせる関係が構築されています。
- 海外姉妹友好都市をはじめとする、海外との文化交流が活発に行われ、板橋区の文化芸術が世界に発信されています。また互いの「文化」にふれながら、それぞれを尊重しあうとともに、新たな文化芸術と多文化共生の価値を創造する機会としています。
- すべての人が自由に文化芸術活動、鑑賞できる環境が整っています。文化施設はユニバーサルデザインの推進により、案内や設備の多言語対応をしており、外国人が気軽に利用できることで、文化交流拠点となっています。また地域の外国人ボランティア等と連携し、区内文化芸術イベントを外国語対応することで外国人も参加、鑑賞しやすくなり、文化芸術をきっかけとする交流機会の創出がなされています。

### ■施策のあり方

- 地域文化の魅力発信と交流機会創出  
赤塚エリアの文化施設の連携推進、加賀エリアの文化・産業・歴史ゾーンの整備など板橋の文化の魅力を磨き、発信していきます。また商店街など地域で長年にわたり続いている祭りなどは、地域に根差した文化であり、同じ地域で共生する外国人との交流機会になります。こうした文化交流を通じて、互いに理解しあい、ともに力を合わせる機会として推進していきます。
- 海外姉妹友好都市との連携  
海外姉妹友好都市が東京都 23 区内最多 5 か国の利点を活かし、活発な国際交流を推進します。文化交流については、相互披露による鑑賞だけでなく、互いの文化との融合など新たな文化芸術の創造の場とします。また国際交流は、共通課題の解決に向けた各都市との情報連携の構築を目指します。
- 文化芸術における環境整備の推進  
文化芸術の拠点である文化会館は、安心して安全に利用できる設備、コミュニケーションとくつろぎの空間を創出します。また外国人が文化芸術活動や鑑賞しやすい環境づくりとして、ハード面での多言語化などによりユニバーサルデザインの推進をします。

## 10 ビジョンの基本理念等

- 基本理念
- 基本目標（文化芸術、多文化共生）
- 目標（文化芸術、多文化共生）

第3回検討会にて検討